

12月定例所長会見における発電所長挨拶内容

- 所長の設楽でございます。
  
- 福島第一原子力発電所の事故から6年9ヶ月が経過いたしました。今なお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、あらためまして心よりお詫び申し上げます。
  
- 本日、私からは2点お話しをさせていただきます。
  
- まず始めに、原子炉建屋等の防火壁貫通部において防火処置未実施箇所が確認された件についてです。

現在、迅速かつ確実な是正作業を行うため、建設当時の貫通孔の設計、施工の考え方等について深掘りを行っております。

この深掘り作業の過程において、これまでの調査の対象範囲に法令要求対象外の防火区画を含んでいた可能性があることや、現場において、高所の貫通部をカメラにて確認した際に、カメラの位置によっては見方が十分であったか、より精査すべき箇所があることが分かりました。

このため、是正対象箇所が変わる可能性があります。これら精査は進めつつ、確定した対象箇所については、防火上の影響軽減に資する是正措置として、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

なお、今後の対応方針や精査の結果については、取りまとまった段階でお知らせさせていただきます。

○ 次に、この1年を振り返っての所感です。

本日の会見は今年最後の定例会見となりますが、この1年を振り返ってみますと、「地域の皆さまとの繋がり」ということを、より一層意識し、考え、実践してきた1年だったと感じております。

私どもは、免震重要棟の耐震性の説明に関する問題において、地域の皆さまの視点で考え、行動することの大切さを改めて強く感じました。

この問題の反省を踏まえ、各戸訪問など地域の皆さまと直接接する機会に技術系職員も参加することや、広報部門が伺ってきた地域の皆さまのご意見などを社内に共有する活動を通じ、技術系、事務系を問わず、社員一人一人が、地域の皆さまのお考えやお気持ちを知り、自分達の責任としてなすべき仕事がある何かを考える契機としております。

また、9月に開催された刈羽村消防団秋季消防演習への参加や、先月の柏崎市消防署との合同消防訓練など、地元の組織と一緒に活動させていただきました。この取り組みを通じて多くのことを学び、スキルの向上はもとより、所員のモチベーション向上にも繋がるものであったと感じております。

今後とも、社内外の様々な活動を通じて、地域の皆さまとの繋がりに想いを馳せながら、地域の皆さまから信頼していただける発電所を目指してまいりたいと考えております。

○本日、私からは以上です。

以 上